

そらはあおくすみわたり、かぜ
がしずかにふいていた。やまの
むこうに、ごじゅうのとうがそ
びえている。そのとうは、なが
いとしつきをじつとたえてき
た。まるで、だいちにねをはる
たいぼくのようにであった。

こうだろはん「ごじゅうのとう」より